

# 事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	( )
担当部課名	保健福祉部	障害福祉課		
事務事業名	障害児者宿泊費助成		事業コード	11310

1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	安心して生活できる福祉社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第3節	障害者の自立支援と社会参加	~63 年度
施策名	第1施策	自立した生活を実現するための環境づくり	

2 実施根拠及び関連法令等

市障害児者等宿泊費助成要綱
---------------

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
障害児者が宿泊施設を利用した場合に宿泊費の一部を助成し、社会参加の促進を図る。		障害児者と介護者	
		対象数	13678人+介護者
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
年度1回 宿泊に対し3,000円の助成 @ 3,000 × 1,464人 = 4,392千円		なし	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名なし	
		計画年次 年度 ~ 年度	

4 評価指標

指標名	助成制度利用率		
指標式	障害者に対する利用者の割合(利用者/障害者数)		
指標設定の意図	利用者数を把握することで、社会参加の促進状況を表す		

5 目標と実績

[金額単位：千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	11	10	a 11	b 11	11	
指標			c	d		
指標			e	f		
事業費	決算(予算)額	4,053	4,062	4,392	4,392	4,557
	人員・時間数	30H・年	30H・年	30H・年	30H・年	24H・年
	人件費	125	125	125	125	100
	その他経費					
	合計	4,178	4,187	4,517	4,517	4,657
特定財源						

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 B ▼	A : 達成している ( 100%)	= 、 、 の平均値 = 97.3%	
	B : 一部達成していない(100%> 80%)		
	C : 達成していない (80%> )		
$\frac{a}{b}$	$\frac{10.7}{11.0} \times 100 = 97.3\%$	$\frac{c}{d}$	$\times 100 =$
$\frac{e}{f}$	$\times 100 =$		
理由 :	目標にはほぼ達している。		

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A : 適応している	理由 :	障害者も旅行やレジャーを楽しむことが必要で、外出することが社会参加することになり、一般市民も障害者と触れあう機会を得ることで、共に暮らしていくことの重要性を再認識することができるため、時代に適応した事業である。
	B : 一部適応していない		
	C : 適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A : 妥当である	理由 :	障害者の経済的負担を軽減し、同時に社会参加を促進することができ効率性は高い。
	B : 一部妥当でない		
	C : 妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 A ▼	A : 代替の可能性ない	理由 :	旅行費用の一部補助であるため、民間等に代替する可能性はない。
	B : 代替の可能性低い		
	C : 代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 B ▼	A : 満足できる	理由 :	一人につき年一回一泊のみの助成に制限されているため、複数回の利用を要望されている。
	B : 一部満足できない		
	C : 満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A : 有効である	理由 :	障害者の経済的負担を軽減し、同時に社会参加を促進している。
	B : 一部有効である		
	C : 有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ある</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p> <p>説明 : 制度の周知をして、利用者を増やす。</p>
	<p>コスト改善余地</p> <p><input type="checkbox"/> ある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ない</p> <p>説明 : 一人一泊3,000円の助成額を削減することは難しい。ただし、事務処理方法を改善することにより、人件費の削減をはかることができる。</p>

7 総合評価

評価 AA ▼	他自治体の類似事業との比較	本市と同規模の横須賀市、藤沢市とも同制度の実施はない。	
今後の進め方			
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	説明	障害者の社会参加を促すとともに、障害者が社会参加することにより一般市民があらゆる場面において、ノーマライゼーションに対する理解を深める機会を得ることになる。今後、引き続き本制度を継続し障害者の社会参加の支援にあたることとする。
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--